

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

貴方がたはとくと考えられたことがあるでしょうか、今も日本が素晴らしい手仕事の国であるということを。確に見届けたその事実を広くお報らせするのが、この本の目的であります。西洋では機械の働きが余りに盛で、手仕事の方は衰えてしまいました。しかしそれに片寄り過ぎては色々の害が現れます。それで各国とも手の技を盛返そうと努めております。なぜ機械仕事と共に手仕事が必要なのであるでしょうか。機械に依らなければ出来ない品物があると共に、機械では生れないものが数々あるわけがあります。凡てを機械に任せてしまうと、第一に国民的な特色あるものが乏しくなつてきます。

機械は世界のを共通にしてしまふ傾きがあります。それに残念なことに、機械はとかく利得のために用いられるので、出来る品物が粗末になりがちであります。それに人間が機械に使われてしまふためか、働く人からとかく悦びを奪つてしまひます。こういうことが禍いして、機械製品には良いものが少くなつてきました。これらの欠点を補うためには、どうしても手仕事を守られねばなりません。その優れた点は多くの場合民族的な特色が濃く現れてくることと、品物が手堅く親切に作られることとであります。そこには自由と責任とが保たれます、そのため仕事に悦びが伴つたり、また新しいものを創る力が現れたりします。それ故手仕事を最も人間的な仕事と見てよいでありましょう。ここにその最も大きな特性があると思われれます。仮りにこういう人間的な働きがなくなつたら、この世に美しいものは、どんなに少くなつて来るでありましょう。(中略)

欧米の事情に比べますと、日本は遥はるかにまだ手仕事に恵まれた国なのを氣附きます。各地方にはそれぞれ特色のある品物が今も手で作られつつあります。〔①〕

しかし残念なことに日本では、かえつてそういう手の技が大切なものだという反省が行き渡つておりません。〔②〕それどころか、手仕事などは時代にとり残されたものだという考えが強まつてきました。そのため多くは投げやりにしてあります。〔③〕このままですと手仕事は段々衰えて、機械生産のみ盛になる時が来るであります。〔④〕しかし私どもは西洋でなした過失を繰返したくはありません。日本の固有な美しさを守るために手仕事の歴史を更に育てるべきだと思ひます。その優れた点をよく省み、それを更に高めることこそ吾々の務めだと思ひます。

【柳宗悦「手仕事の日本」より】

問 1 傍線「手仕事」とあるが、本文中でこれと同じ意味で用いられている語を、三字で書き抜きなさい。

--	--	--

問 2 次の一文は文中のどこに入るか。最も適切な場所を、文中の①～④から選んで記号で答えなさい。

--

例えば手漉きの紙や、手轆轤の焼物などが、日本ほど今も盛に作り続けられている国は、他には稀ではないかと思われれます。

解答

問 1 手の技

問 2 ①